

平成22年度第4回産業衛生技術部会企画委員会 議事資料

日時：平成23年3月5日(土) 11時30分-13時30分

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 51号館11階11室

出席予定：名古屋俊士、中明賢二、加藤隆康、落合孝則、近藤充輔、
原邦夫、大西明宏、山野優子、中村憲司、村田克

議事・報告：

1. 代議員・理事選挙について
2. 平成22年度部会事業報告
3. 12/11関東地方会例会開催報告
4. 平成22年度部会会計報告
5. 平成23年度部会体制・事業計画
6. 関東地方会ニュースレター「フリーページ」について
7. その他

1. 代議員・理事選挙について

2. 平成22年度部会事業報告（理事会提出用）

1) 総会の開催

平成22年5月28日（金）17:00～17:30 福井県国際交流会館 2F 第1会議室

2) 幹事会の開催

第1回：平成22年5月26日（木）17:00-18:00 福井県国際交流会館 2F 第1会議室

第2回：平成23年1月22日（土）11:45-12:45 早稲田大学西早稲田キャンパス 52号館103号室

3) 産業衛生技術フォーラムの開催

平成22年5月28日（金）14:30-17:00 福井県国際交流会館 2F 第1会議室

テーマ：化学的環境ーリスク管理とリスク軽減ー

座長：中明賢二（麻布大）

1. ホルムアルデヒドを含む化学物質のリスク管理 河合俊夫（中災防・大阪センター）
2. 化学物質と神経障害 松岡雅人（東京女子医大・衛生学公衆衛生学）
3. 化学的環境のリスク軽減 谷井秀治（金沢大）

4) 第18回産業衛生技術部会大会

平成23年1月22日（土）13:00 - 16:00 早稲田大西早稲田キャンパス 57号館201号室

テーマ：産業衛生分野における現在の人間工学の役割

1. 労働衛生における人間工学的課題 城内 博（日大）
2. 椅子作りと人間工学 八木 佳子（株）イトーキ
3. 高年齢労働者の転倒災害と防止対策 大西 明宏（安衛研）
4. safety management におけるヒューマンファクター 小松原 明哲（早大）

5) 産業衛生技術専門研修会の開催

・第10回産業衛生技術専門研修会

平成22年5月27日（木）15:30-17:00 福井県国際交流会館 2F 第3会議室

テーマ：職場における化学物質管理の今後の動向について

講師：名古屋俊士（早大）

・第11回産業衛生技術専門研修会

平成23年1月22日（土）10:00-11:30 早稲田大学西早稲田キャンパス57号館201号室

司会：今井常彦（東邦大）

テーマ・講師：人間工学・大橋信夫（労研）

6) 労働衛生工学基礎講座の開催

平成22年3月1日（月）13:00-16:30 東京トラック事業健保会館（東京都千代田区四番町5-7）

テーマ：作業環境測定に使用できる電氣的センサーの現状と展望

7) 各委員会の活動

(1) 企画委員会（委員長：村田克・労研）

平成21年4月、7月、10月、平成23年3月に委員会（計4回）を開催した。

(2) 教育研修委員会（委員長：今井常彦・東邦大）

産業衛生技術専門研修会（第10回、第11回）を企画・開催した。

(3) 広報委員会（委員長：落合孝則・東工大）

部会ホームページ及びメーリングリストの管理を行った。

(4) 企業安全衛生グループとの交流委員会（委員長代理：田中茂・十文字女子学園大）

全国衛生管理者協議会等で講師派遣活動を行った。

(5) 表彰委員会（委員長：名古屋俊士・早大）

今年度の産業衛生技術部会奨励賞候補2名（城 憲秀氏・中部大、今井常彦氏・東邦大）の選定作業を行った。

(6) 4部会コラボレーティング委員会（委員長：落合孝則・東工大）

他部会と共同で4部会合同セミナー（平成22年10月13日～14日・レンゴー株式会社恵庭工場、札幌ガーデンパレス、北海道立道民活動センター）、およびリレーワークショップ（平成22年10月15日・北海道立道民活動センター）を開催した。

3. 12/11関東地方会例会開催報告

第251回日本産業衛生学会関東地方会例会（兼 第24回関東産業衛生技術部会研修会）

日時：平成22年12月11日（土）13:25-16:00

会場：早稲田大学西早稲田キャンパス57号館202号室

内容：13:25- 開会挨拶 角田 透（日本産業衛生学会関東地方会長）

13:30- 口演（3題）

14:30- ポスターセッション（5題、会場入口付近）

15:00- 口演（3題）

参加：55名

4. 平成23年度部会体制・事業計画

1) 平成23年度産業衛生技術部会体制（事務局案）

部会長：名古屋俊士（早稲田大）
 副部会長：加藤隆康（(株)グッドライフデザイン）
 副部会長：田中 茂（十文字学園女子大）（関東地方会担当）
 監事：中明賢二（麻布大）
 幹事（五十音順）：

板井一好（岩手医科大）（東北地方会担当）・伊藤昭好（産業医科大）（九州地方会担当）・
 今井常彦（東邦大）・大道正義（千葉市社会福祉事業団）・大森義文（三菱電機）・大藪貴子（産業
 医科大）・落合孝則（東京工業大）・河合俊夫（中災防大阪労働衛生総合センター）（近畿地方会担
 当）・岸田孝弥（高崎経済大）・神山宣彦（東洋大）・近藤充輔（産業医科大）・鈴木忠能（藤沢湘南
 台病院）・須那 滋（香川県立保健医療大）（四国地方会担当）・田口豊郁（川崎医療福祉大）（中国地方
 会担当）・武田繁夫（三菱化学）・武田秀勝（札幌医大）（北海道地方会担当）・城 憲秀（中部大）（東
 海地方会担当）・田中勇武（産業医科大）・谷井秀治（金沢大）（北陸甲信越地方会担当）・田吹光司郎
 （西日本産業衛生会）・千葉百子（国際医療福祉大）・土屋真知子（静岡県産業環境センター）・
 永野 恵（熊本大）・長見まき子（関西福祉科学大学）・那須民江（名古屋大）・野原誠一郎（日本
 化学繊維協会）・原 邦夫（久留米大）・保利 一（産業医科大）・道辻広美（松下産業衛生科学セン
 ター）・村田 克（早稲田大、労研）・薮田十司（北里大）・山野優子（昭和大）

各委員会（6委員会）：

企画委員会（委員長：村田克・早稲田大、労働科学研究所）
 教育研修委員会（委員長：今井常彦・東邦大）
 広報委員会（委員長：落合孝則・富士通）
 企業安全衛生グループとの交流委員会（委員長：田中茂・十文字女子学園大）
 表彰委員会（委員長：名古屋俊士・早稲田大）
 4部会コラボレーション委員会（委員長：落合孝則・富士通）

事務局：村田 克（早稲田大、労研）、中村憲司（安衛研）

2) 第84回日本産業衛生学会（東京）会期中の行事

- ・平成23年度第1回産業衛生技術部会幹事会
 5月19日（木）12時-13時 シーサイドホテル芝弥生11階「ふじ」（第7会場、80名収容）
- ・第13回産業衛生技術専門研修会
 5月19日（木）14時45分～16時55分 シーサイドホテル芝弥生11階「ふじ」（第7会場、80名収容）
 講師：加藤隆康・グッドライフデザイン
 テーマ：「企業経営リスクと産業衛生」
- ・産業衛生技術フォーラム（抄録添付）
 5月20日（金）15時-18時 ホテルアジュール竹芝16階「曙」（第2会場、196名収容）
 テーマ：「企業経営リスクとしての産業衛生を考える」
 座長：加藤隆康、中明賢二
 講師：原邦夫・帝京平成大、小澤正彦・損害保険ジャパンヘルスケアサービス、
 安福慎一・新日本製鐵、野口和彦・三菱総研

3) 第21回産業医・産業看護全国協議会（福岡）会期中の行事

- ・4部会合同セミナー
 今回の訪問職場は、病院現場のパトロールとして、福岡の徳洲会病院を対象とする。
 11月23日（水）12:00- 西鉄イン福岡：実行委員が集まり打ち合わせ
 13:00-16:30 徳洲会病院に移動し、チェックリスト講習および職場パトロール
 16:30-17:00 西鉄イン福岡へ移動
 18:00-20:00 ワークショップ
 20:00-22:00 交流会

(字) 5月19日
 5月19日 5月19日
 4/2 研修会
 (7-5) 研修会

+ 研修会?
 研修会
 マネージ

11月24日(木) 10:00 -12:00 アクロス福岡 7階大会議室にて各班のプレゼン、講評、認定シール渡し
今後の計画作成予定

5月9日(月) 13:00- 産業医部会の宇土[✓]と技術部会の落合[✓]が、織田先生と同行し徳洲会病院を訪問し、合
同セミナーの計画作成する予定 39 28

・リレーワークショップ

11月25日 (金) 9:30-11:45 西鉄イン福岡 詳細未定

4) 第13回産業衛生技術専門研修会・第20回産業衛生技術部会大会の開催について

12/17	日程	コンサルメント	・ 選定の10%	・ 30% アンケート
早大	会場	池之土	・ 合計の10%	
産業医部会の10%	テーマ	17選 27選	・ 7%	・ 10%
(12)		27選		

5) 第25回関東産業衛生技術部会研修会の開催について (資料添付)

日時・会場：平成22年3月29日 (火) 8:30-13:00・慶應義塾大学医学部

メインテーマ：インジウム・スズ酸化物取扱い作業による健康障害防止に関する最近の動向について

5. 関東地方会ニュースレター「フリーページ」について (資料配付)

10%の1/2 → 10%に引き上げ

6. その他

産業衛生技術部会フォーラム

Occupational Health Technology –Hygiene and Ergonomics- Forum

企業経営リスクとしての産業保健を考える

Risk of Company Management and Occupational Health Action

Risk of The Conduct of Management and Occupational Health Action

中明 賢二 Nakaaki Kenji 麻布大学 名誉教授

Azabu University, Sagamihara, Kanagawa, Japan

加藤 隆康 Kato Takayasu 株式会社グッドライフデザイン 代表取締役社長

Good Life Design CO.,LTD , Toyota, Aichi, Japan

我が国の経済環境はアメリカで発生した金融危機以後、悪い状態が続いている。特に、国民の消費行動は低く、物が売れない状態が続き、企業の倒産や大学新卒者の就職状況は極めて悪い。このような環境において、各国の景気浮上策や金融緩和、中国を含むアジアの景気に支えられ、企業を取り巻く経済環境にも少しずつ明るさが見えてきた。

しかし、全ての企業や業種で改善しているとは思えず、格差が広がりつつあるように思われる。経営者にとっては極めて大きなリスクを抱え、ストレスの大きな時代である。

さて、企業経営に大きな影響を与えるリスクは、社の内外を問わず非常に多くの因子がある。企業のグローバル化、生産システム・開発システム・管理システム・通信システムのIT化、少子高齢化、個人の権利意識の高揚等時代の変化とともにますます複雑で多要因になりつつある。

例を挙げれば、地震・台風・大雪などの自然災害、火災・情報漏洩・サイバー攻撃などのセキュリティ問題、大気・土壌・水質汚染などの環境問題、製品やお客様に対する責任問題やCSR、金利や為替変動・商品の低価格化などの財務問題、労働災害・職業病・労働時間などの労務問題、コンプライアンス問題・など書き出せばきりが無いほど多くの企業経営に影響するリスクがある。

そして、産業衛生上の問題も企業経営に影響を与えるようになってきた。従来は、鉛中毒や有機溶剤中毒など急性・亜急性の職業病が重要な問題とされてきたが、職場環境などの改善によりこれらの問題は減少しつつある。しかし、石綿に見られるように、暴露されて長期間を経過し発病する障害や過去には個人の問題として処理されてきた、精神系疾患や脳血管疾患・心疾患などが作業関連疾患として企業責任を問われることも多くなってきた。また、サーズやインフルエンザなどの感染症が企業活動を停止することもある。労働者が高齢化する中で職場の活性化と健康な労働力をいかにして確保するかは大変重要な課題である。産業保健活動はどちらかと言えば、リスクとして捉えられマイナスイメージが強く、産業医や産業保健スタッフに任せておけば良いという考えが一般的である。

産業保健上の問題も訴訟や企業活動が停止するような重要リスクであり、企業経営の危機管理の中で重要事項として対応すべきである。産業保健の専門家ではなく、経営者や管理者の日常マネジメント活動として位置づけるべきであり、産業保健を切り口とした経営活動も可能と思われる。

今回のフォーラムのテーマは、非常に幅広く、また、結論が出るものではないが、今後の産業保健活動を企業の経営活動の中に位置づけるための議論のきっかけとなれば幸いである。

今回のフォーラムでは、産業保健にかかわりを持ちながら、社会的にも幅広くご活躍の4人の方を演者としてお招きし、それぞれのお立場で自由にショートレクチャーをしていただきその後会場の皆様と議論を進めたい。

経営の重要指標としての安全を考える

Concept of safety as the important index of the management

株式会社三菱総合研究所 野口 和彦

1. 安全の位置づけ

これまで、安全問題はややもすると現場の問題として位置づけられてきた。特に労働安全は、ヒューマンファクター等との関係で議論されることが多く、リスクマネジメント等の新たな活動も、現場の小集団活動の延長として受けとられてきた。その中で、「安全第一」、「安全文化」という考え方が生まれ、安全を推進するコンセプトとして活用されてきた。

しかし、「安全第一」というコンセプトは、安全関係者にとってはまぎれも無い真実であっても、民間企業の経営にとっては、必ずしも無条件で同意できるコンセプトとはいえない。

「安全」を向上するためには、「安全」を安全関係者内での言葉でかたるのではなく、真に企業全体に受け入れられるような言葉で語る必要がある。

「安全文化」というコンセプトも、安全関係者内では、全員が賛成するコンセプトであっても、他の社員にとっては、より重要と考えるコンセプトがあるかもしれない。それぞれの企業の文化の中で、どのような概念を重視して企業文化を構築するかは、安全も含めてそれぞれの価値をその企業中でどう考えるかという真剣な議論無しでは、決まるものではない。その議論の中で、安全を重視していく企業文化が構築できて、はじめて安全文化を持つ企業といえることができる。

2. 経営からみた安全

現在の経営者は、その多くが安全の重要性を認識している。したがって、安全大会等で、安全に関する事項だけを語る経営者の言葉には、すばらしいものがある。

しかし、その経営者が、通常の経営に戻った場合は、いつの間にか安全に関する関心が、経常利益等の他の経営指標に向いている場合が多い。

安全を経営としてしっかり担保していくためには、売り上げや経常利益と同様に経営の重要指標として安全をみる必要がある。

現在の日本企業は、様々な努力を重ね企業維持している状況で、経営における余裕は無い。この状況では、ある指標を向上させようとするれば、必ず他の指標に影響を与える必要がある。そのため、それぞれの指標を高めるということは分かっているが、限られたリソースの中では、指標間の優先順位やバランスが重要となる。このため、経営判断において安全活動を適切に判断してもらうためにも、安全の経営指標化は重要である。

安全を指標化するには、事故の有無といった結果指標で見るだけでは十分ではない。事故が起きていないということと、その職場が安全な状況にあるということは、同義ではないからだ。経営が安全を重要指標として扱う際には、職場や企業内に潜在するリスクについての検討が重要となる。

3. 経営と現場で構築する安全

安全は、経営だけでも現場だけの努力でも実現はできない。

安全向上には、経営、現場ともそれぞれの役割を果たす必要がある。

経営者の役割としては、まず企業として目指す安全目標を設定し、全社で共有させることがある。次に、安全に関する企業内外の環境の調査を行い、安全目標達成のためのリソースの確保や活動環境の整備を行う必要がある。さらには、安全に関する継続改善を行う仕組みを設け、そのマネジメントシステムを適切に運営しなければならぬ。

現場は、経営者から示された安全目標に影響を与える可能性をリスクとして把握し、職場の現状リスクの状況を、経営者に示す必要がある。そして、経営者の評価に基づき、複数の対策案を検討し、その対策効果を付加して、対策案の選定を経営者に求める必要がある。

このような、経営と現場が一体となった仕組みを構築して、はじめて安全な職場が実現でき、良い組織、良い仕事の実現が可能となる。

小澤 正彦 (おざわ まさひこ)

株式会社損害保険ジャパン・ヘルスケアサービス 代表取締役社長

Masahiko OZAWA

Chief Executive Officer

SOMPO JAPAN HEALTHCARE SERVICES INC.

生年月日 1956年8月23日

経歴

1979年3月 早稲田大学 法学部 卒業

1979年4月 安田火災海上保険(株) (現・損害保険ジャパン) 入社

1990年6月 欧州安田火災海上保険(株) 経営企画マネージャー 兼

安田火災海上保険(株) 欧州アフリカ中東部・ロンドン駐在員

1994年4月 同 新規事業開発部 課長

1994年9月 INA生命保険(株) (現・損保ジャパンひまわり生命) 出向
役員室長

1996年4月 同 経営企画室長

1997年4月 安田火災海上保険(株) 業務企画室課長 兼 社長室課長

1999年4月 同 グループ事業企画室 課長

2002年4月 セゾン自動車火災保険(株) 取締役 (出向)

2004年4月 (株)損害保険ジャパン 長寿社会開発部 担当部長

2005年10月 同 ヘルスケア事業開発部長

2007年4月 同 ヘルスケア事業開発部長 兼

(株)損保ジャパン・ヘルスケアサービス 代表取締役社長 (出向)

2009年4月 (株)損保ジャパン・ヘルスケアサービス 代表取締役社長 (出向)

2010年4月 (株)損害保険ジャパン 理事 兼

(株)損保ジャパン・ヘルスケアサービス 代表取締役社長 (出向)

現在に至る

社外委員等

2007年-08年 経済産業省 平成19年度ビジネス性実証支援事業「健康情報のための
基盤構築と健康サービス産業の新たな展開に向けた調査研究」政府委員

2005~2008 日本経済団体連合会 社会保障委員会 医療制度改革部会 委員

2010年4月1日現在

経歴
→

経歴
各経歴
1911

→ 経歴として、各経歴点検。

2011年1月4日

第25回 関東産業衛生技術部会・研修会のご案内

関東産業衛生技術部会部会長 田中茂 (十文字学園女子大)

インジウム・スズ酸化物取扱い作業による健康障害防止に関する最近の動向について

2001年、液晶ディスプレイの透明電極等の材料に用いられる酸化インジウムと酸化スズの混合物(インジウム・スズ酸化物)の焼結体の切削・研磨作業に従事していた労働者が重篤な肺疾患に罹患して死亡する労働災害が発生した。慶応大学・九州大学のチームでは、インジウムの有害性に関する動物実験を行うとともに、全国の取扱い事業場に対し作業者の健康影響調査を実施してきた。厚生労働省は2004年7月「インジウム・スズ酸化物等取扱い作業における当面のばく露防止対策について」の通達(基安化発第0713001号)を發布し、曝露防止対策を行った。2010年6月、日本バイオアッセイ研究センターはインジウム・スズ研削粉の吸入によるがん原性試験を実施し、低濃度の吸入ばく露によりラットで発がんを含む肺疾患、マウスで肺疾患が起きたことを報告した。厚生労働省は検討会を開催し、2010年12月「インジウム・スズ酸化物等の取扱い作業による健康障害防止に関する技術指針」を公表した。

今回、インジウム・スズ化合物取扱い作業による健康障害防止に関する最近の情報について発表を行い、学会としての対応について議論したいと考えております。学会員以外の方でも参加できます。多くの方のご参加を期待しております。

●日時：2011年3月29日(火) 9:00から13:00 (8時30分より受付開始)

●場所：慶應義塾大学医学部 予防校舎3階 講堂 東京都新宿区信濃町35

●定員：100名

●参加費：1000円(資料代として)

●参加申し込み：(準備のため、参加希望者は前もってご連絡頂ければ幸いです。)連絡先：田中茂 (stanaka@jumonji-u.ac.jp TEL 048-477-0555 (代表))

●研修プログラム

司会：田中茂(十文字学園女子大学人間生活学部)

9時～9時40分 長野嘉介先生(中央労働災害防止協会日本バイオアッセイ研究センター)

インジウム・スズ酸化物ターゲット材の研削粉の長期吸入による発がん性試験

9時40分～10時20分 平田美由紀先生(九州大学医学研究院環境医学分野)

インジウム化合物の吸収・分布・代謝・排泄

10時20分～11時 中野真規子先生(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

インジウム・スズ酸化物取扱い作業による健康障害

11時～11時10分 休憩

11時10分～11時40分 宮内博幸先生(産業保健協会研究開発部)

インジウム・スズ酸化物のリサイクル工場における作業環境調査結果

11時40分～12時10分(厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質評価室)

行政からの情報提供(仮題：依頼中)

12時10分～13時 大前和幸先生(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

総括およびディスカッション

以上